

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 23002

建築物名称	(仮称)HAKUBA新築工事
建築主	白馬特定目的会社 取締役 北川 久芳
建築物の所在地	川崎市幸区北加瀬二丁目585番1号
設計者氏名、建築士事務所名	小林 利道 株式会社大林組 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	15,152.15㎡
用途	その他(データセンター)
構造	鉄骨造
階数	地上5階
工事完了予定年月	令和6年11月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)HAKUBA新築工事	階数	地上5F
建設地	神奈川県川崎市幸区北加瀬二丁目585番1号の一部	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年11月 予定	評価の実施日	2023年4月14日
敷地面積	22,937 m ²	作成者	海老原浩雄
建築面積	3,538 m ²	確認日	2023年4月14日
延床面積	15,152 m ²	確認者	小林利道

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)HAKUBA新築工事	階数	地上5F
建設地	神奈川県川崎市幸区北加瀬二丁目585番1号の一部	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年11月 予定	評価の実施日	2023年4月14日
敷地面積	22,937 m ²	作成者	海老原浩雄
建築面積	3,538 m ²	確認日	2023年4月14日
延床面積	15,152 m ²	確認者	小林利道

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 89%
③上記+②以外の 89%
④上記+ 89%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健)	2.1
4(教育)	#DIV/0
5(ジェンダー)	2.0
6(水・衛生)	1.9
7(エネルギー)	2.0
8(経済・雇用)	1.6
9(インフラ)	1.8
11(都市)	1.6
12(生産・消費)	1.9
13(気候変動)	1.9
15(陸上資源)	1.0
17(実施手段)	1.1

*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

機能性 耐用性 対応性

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

生物環境 まちなみ 地域性・

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

建物外皮の 自然エネ 設備ンステ 効率的

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

水資源 非再生材料の 汚染物質

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

地球温暖化 地域環境 周辺環境

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策	特になし。		
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮		2.0/4.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策	特になし。		
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.8
Q-1 ■ 室内環境対策	評価対象外		
2 2.1 2.1.2 外皮性能		0.0/0.0	-
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策	特になし。		
1 生物環境の保全と創出		0.8/2.3	1.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.58。	3.6/5.0	3.6
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI _m =0.77。		
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGS使用している。	2.9/4.7	3.0
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。		
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策	特になし。		
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策	特になし。		
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.5/0.8	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGS使用している。	2.4/4.0	3.0
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策	特になし。		
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	3.0
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策	特になし。		
1 生物環境の保全と創出		0.8/2.3	1.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.58。	3.6/5.0	3.6
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI _m =0.77。		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策	特になし。		
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.8**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策	特になし。		
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.2	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策	特になし。		
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.8/1.3	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.58。	3.6/5.0	3.6
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI _m =0.77。		
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
	G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
3.0										
1 音環境										
-										
1.1 室内騒音レベル										
-										
1.2 遮音										
-										
1 開口部遮音性能										
-										
2 界壁遮音性能										
-										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
-										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
-										
1.3 吸音										
-										
2 温熱環境										
-										
2.1 室温制御										
-										
1 室温										
-										
2 外皮性能										
W										
3 ゾーン別制御性										
-										
2.2 湿度制御										
-										
2.3 空調方式										
-										
3 光・視環境										
-										
3.1 昼光利用										
-										
1 昼光率										
-										
2 方位別開口										
-										
3 昼光利用設備										
W										
3.2 グレア対策										
-										
1 昼光制御										
W										
3.3 照度										
-										
3.4 照明制御										
-										
4 空気質環境										
-										
4.1 発生源対策										
-										
1 化学汚染物質										
-										
4.2 換気										
-										
1 換気量										
-										
2 自然換気性能										
-										
3 取り入れ外気への配慮										
-										
4.3 運用管理										
-										
1 CO ₂ の監視										
-										
2 喫煙の制御										
-										
Q2 サービス性能										
-										
0.43										
-										
-										
4.0										
1 機能性										
-										
1.1 機能性・使いやすさ										
-										
1 広さ・収納性										
-										
2 高度情報通信設備対応										
-										
3 バリアフリー計画										
-										
1.2 心理性・快適性										
-										
1 広さ感・景観										
-										
2 リフレッシュスペース										
-										
3 内装計画										
-										
1.3 維持管理										
-										
1 維持管理に配慮した設計										
-										
2 維持管理用機能の確保										
-										
2 耐用性・信頼性										
3.9										
0.50										
-										
-										
3.9										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
-										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する。										
5.0										
0.50										
2 免震・制震・制振性能										
建物全体で免振構造を行っています。										
5.0										
0.20										
2.2 部品・部材の耐用年数										
-										
1 躯体材料の耐用年数										
R										
3.0										
0.20										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
R										
2.0										
0.20										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
R										
3.0										
0.10										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
R										
3.0										
0.10										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
R										
5.0										
0.20										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
R										
3.0										
0.20										
2.4 信頼性										
-										
1 空調・換気設備										
-										
2 給排水・衛生設備										
-										
3 電気設備										
-										
4 機械・配管支持方法										
-										
5 通信・情報設備										
-										
電気設備は地下空間で設置がございませんので、浸水の恐れがございません。										
4.0										
0.20										
3.0										
0.20										
3.0										
0.20										

3	対応性・更新性								4.0	0.50	-	-	4.0
	3.1 空間のゆとり								4.6	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり								5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ								4.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり								5.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性								3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性								3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性								3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性								3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性								3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性								3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保								3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)								-	0.57	-	-	2.2
1	生物環境の保全と創出	G	W			H	-		1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	G					-		3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮						-		2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上						-		2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W			H	-		3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性								-	-	-	-	3.3
LR1	エネルギー								-	0.40	-	-	3.5
1	建物外皮の熱負荷抑制		W			H	BPIm=0.58。		5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		W			H	-		3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		W			H	BEIm=0.77。		3.3	0.50	-	-	3.3
4	効率的運用								3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価								3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		W			H	-		3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		W			H	-		3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価								-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		W			H	-		-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		W			H	-		-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル								-	0.30	-	-	3.0
1	水資源保護		W			R			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水						節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。		4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無						-		3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無						-		3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減								2.8	0.60	-	-	2.8
	2.1 材料使用量の削減		W			R	-		2.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		W			R	-		3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W			R	-		3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W			R	-		1.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		W			R	-		-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W			R	LGS使用している。		5.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避								3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用						-		3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避						-		3.5	0.70	-	-	
	1 消火剤		W				-		-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		W				ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。		4.0	0.50	-	-	
	3 冷媒		W				-		3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境								-	0.30	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮		W				ライフサイクルCO2排出率89%		3.4	0.33	-	-	3.4
2	地域環境への配慮								3.4	0.33	-	-	3.4
	2.1 大気汚染防止						燃焼機器を使用していない。		5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	G	W			H	-		3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制								2.7	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減					R	-		3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制					R	-		3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制					R	-		3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制					R	-		2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮								3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-	
	1 騒音						-		3.0	1.00	-	-	
	2 振動						-		-	-	-	-	
	3 悪臭						-		-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制								3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制						-		3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制						-		-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制						-		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制								4.4	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						光害対策ガイドラインの項目の過半を満たす。また、広告物照明は行っていない。		5.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						-		3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	3.0	-	-	-	1.0	-	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	8.0	-	2.0	-	2.0	-	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	10.0	-	1.0	-	2.0	3.0	2.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC0.5 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 屋光率	屋光率 1.5%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口率 0.0%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース .0㎡ /人 病床 .0㎡ /床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 0.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 0 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 0 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 4.2 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 12.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 4900 N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 25% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 80% 水平投影面積率 9% 地表面對策面積率 20% 舗装面積率 79%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.58 熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI _m 非住宅 0.77 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品E - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数((地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数((0 地球温暖化係数(GWP) 3
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数((地球温暖化係数(GWP)
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 46% 棟間隔指標Rw 2.78 地表面對策面積率 34.0% 屋根面對策面積率 0.0% 外壁面對策面積率 0.0% 見付面積Sb 3.017㎡ 越風向と直交する最大敷地幅Ws 165.34 m 基準高さHb 39.26 m 緑地 ##### 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡